

のろくても いいじゃないか

皆さんが3年生に進級したとき、「進化・change」をスローガンに掲げ、生活面でも学習面でも、大きな進化を実現しました。また、部活動や各種コンクールなどでの、皆さんの「文武両道」の活躍は、熊谷富士見中学校の名を関東・県下に広めてくれました。最上級生としてこの1年間、富士見中をよりよい方向に導いてくれたことに、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

第3学年の修了式にあたり、これからの人生を歩んでいく心構えをお話したいと思います。現在、野球の日本代表チームが予選を勝ち抜き、アメリカでの準々決勝に臨もうとしています。野球には「三割バッター」という表現があります。10回の打席で3回ヒットを打つバッターです。「三割バッター」はプロの世界でも一流選手とみなされます。ただ、視点を変えれば、10回のうち7回はヒットを打つことはできません。つまり、失敗したり、思うようにいかなかったりしても、それは当たり前のことと考えられるということです。人生も同じです。思うようにいかないことばかりです。

3年生の多くは高等学校に進学をしますが、私自身の高校生活を振り返ると失敗の連続でした。部活動での挫折、人間関係の悩み…進路も失敗し、1年間の大学受験浪人も経験しました。目の前が真っ暗で、今何をして、どこに向かおうとするのかがわからず、苦しかった記憶があります。その先の人生でも、楽しくうれしいことがたくさんあった反面、失敗や挫折も多く経験してきました。

就職してすぐ、星野富弘さんという人の存在を知りました。群馬県出身の星野さんは大学卒業後、地元の中学校に体育の先生として着任しました。着任して2ヶ月が過ぎたころ、部活動中に宙返りの手本を見せようとして失敗。大けがを負いました。その後、手足の自由を失ってしまったのです。星野さんは、療養生活を送りながらも、口で筆をくわえ、詩や絵をかき始めます。書き溜めた多くの作品は、詩画集として出版され、多くの人のもとに届いたのです。私が特に影響を受けた詩は「のろくても いいじゃないか／新しい雪の上を 歩くようなもの／ゆっくり歩けば 足跡がきれいに残る」（雪の道）です。

皆さんの人生でも多くの失敗や挫折があると思います。そんな時は一旦立ち止まって、「どうすればいいんだろう」と自分の頭と心で考えるようにしてほしいです。すぐに、その答えは見つからないと思います。それでも思うようにいかないことを、人のせいにしてはいけません。矢印は自分自身に向けるべきです。周りの人の助言や優しさに頼りながら、少し方向性が見えてきたら、のろくてもゆっくりでもいいから、歩き出してください。

私は来年度中に60歳・還暦を迎えます。ここまでの人生を振り返ると、遠い昔のことであっても、高校生・浪人時代の失敗や挫折は、きれいな足跡として確認することができます。今なら、あの時に苦しんで、本当に良かったと思うことができます。

皆さんの人生はまだまだ始まったばかりです。その人生がよきものであることを願い、令和7年度第3学年修了式の式辞とします。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣